

若年性認知症支援情報交換会 議事録

- 1、日時 平成26年7月19日(土) 午前10時～11時30分
- 2、場所 交野市保険福祉総合センター 3F研修室
- 3、出席者 *ひまわりの会 *ももの会 *堺・若年性認知症支援の会アクティブ
 *希望の灯 *堺若年性認知症支援の会「フェニックス」 *桃山なごみ会
 *岸和田まあるい会 *ミドルエイジカフェ *日々草の会 *わかみや会
 *交野市地域包括支援センター若年性認知症介護者意見交換会
 *若年性認知症支援の会愛都(アート)の会
 *青い空の郷若年性認知症サロン *若年性認知症支援連絡会ひよこの会
 *一般社団法人SPSラボ若年性認知症サポーターきずなや
 *オレンジカフェ今出川(NPOオレンジコモンズ) *オレンジサロンひと・まち
 *若年性認知症の人・初期認知症の人と家族の交流会根っこことんと
 *特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター (順不同)

4、グループワーク

下記のテーマ毎に3つのテーブルに分かれて、20分経ったら次のテーブルに移るというグループワークを実施した。最終的に最初のテーブルにもどり、テーブルを移らなかった司会進行役の人から、話された内容の発表を行ってもらった。

- ①運営上の問題点 (司会進行 交野市地域包括支援センター 村上氏)
- ②支援者作り (司会進行 岸和田まあるい会 庄司氏)
- ③当事者・家族への広報 (司会進行 希望の灯 下菌氏)

総合司会進行(NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター 沖田氏)

5、グループワークの内容を発表する

①運営上の問題点

- *介護保険を利用される方が多く、支援団体の利用が少ない。
- *サポーターの高齢化により、体力等の問題などが出てきている
- *経理上の問題
 - ・会費等の会計監査をどうしているか
 - ・収支バランスをどうしているか
 - ・経費の削減はどこまで出来るか など共通の話題として出ていた。
- *支援の連携の問題
 - ・当事者が必要とする支援をどうつないでいくのか
 - ・他団体との連携や交流はどうするのか

②支援者(サポーター)作り

- *現在、専門職・一般の人・当事者家族等が中心となり活動している。
- *人材確保の問題と並行し継続性が大きな課題となっている。

*告知(募集)方法としては主にチラシを作成し配布している。

*サポーターの当事者への関わり方等研修が必要である。

*有償ボランティアを利用しているところもある。

*学生参加の必要性

*募集方法の工夫

募集内容等変化をもたせ吟味する必要がある。たとえば若年性認知症支援ではなく地域活性化のボランティアとして募集すると効果があった。

③当事者・家族への広報

*ブログ・Facebook等で広報している。

*地域での人とのつながりを重視している。

(若年性認知症支援をメインに出すのではなく、地域での人とのつながりを広め支援への参加に結びつけていく。)

*サービス(支援)へつなぐまでの時間を短縮することが重要であるから、若年性認知症の支援団体の情報を医療機関から、直接当事者に情報を提供することが必要である。

*当事者、家族の決断を促すためには継続的に根気強く情報を発信していく事が大切。(基本的に住み慣れた土地で安心して生活していくことを支援していく。)

6、今後についてディスカッション

◎この関西若年認知症支援者情報交換会を続けていく必要があるのか？

○続けていくべきである。年一回でも他団体の支援者とのつながりを持ち情報交換出来る事は個人的にもうれしく思う。今後の活動の幅を広げるための新たな気づきに役立てる事が出来る。

○続けていくべきである。この場で、互いの情報、課題を知る事は自身の活動を振り返りや次へとつないでいく事が出来る

○続けていくべきである。互いの情報、特に同じ悩みを共有出来る事はとても力強い。今後の活動への勇気と元気をもらえる。

○関西の支援団体が一同に会すこの会を関西ならではの特化した集まり。近くで見学したいと思ったら、見学にも行きやすいので続けてほしい。

○関西の様々な法人、種類をもつ団体の取り組みの情報を得るのはこの会でしかない。